（１４）不登校支援研究会

会　長　　小野川　憲（中村西中）
副会長　　太宰　三和（竹島小）
事務局　　岩村　悠雅（西土佐小）

１．研究主題　　「　不登校支援の在り方について（初期対応中心）　」

２．研究経過

実施年月日	研 究 の あ ら ま し	会場	備考
令和6年 5月7日（火）	四万十市教育研究会　組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	
令和6年 8月2日（金）	四万十市教育研究会　夏季研修会 内容：不登校の捉え方とその対応 提案者：中山雅代先生（中村西中） 講師：岡村涼子先生（心の教育センター）	中村西中学校	18名参加

３．四万十市教育研究会　夏季研修会

日時：令和６年８月２日（金）

内容：不登校の捉え方とその対応

講師：心の教育センター　岡村涼子先生

〇不登校の捉え方とその対応

・不登校支援とは

「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある。

・不登校が生じないような学校づくり

魅力あるよりよい学校づくり

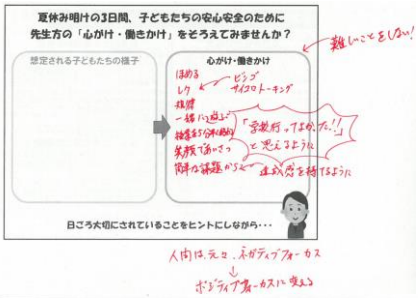
いじめ、暴力行為等問題行動を許さない学校づくり

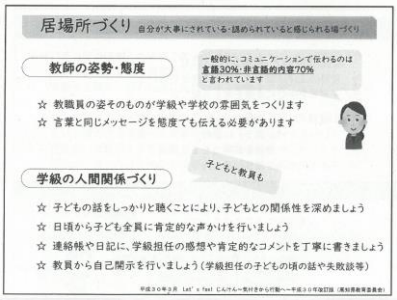
児童生徒の学習状況等に応じた指導・配慮の実施

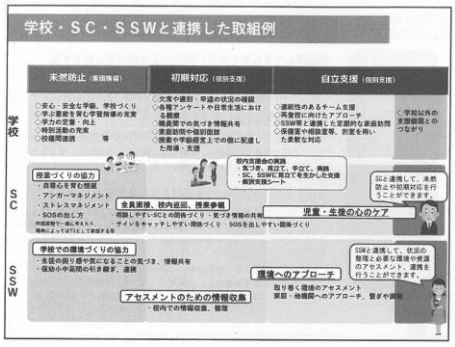
保護者・地域住民等の連携・協働体制の構築

将来の社会的自立に向けた生活習慣づくり

・学校での取り組み例







○研修会の様子

○感想より

・国や県の不登校に対する考え、捉え方を再確認できた。不登校対応について生徒指導の考え方や指導方法を入れて説明していただき、これから学校でどのように取り組めばよいか具体的に知ることができた。

・学校の中で不登校支援には取り組んでいるものの、今日のお話を聞き、情報の集約や先生のベクトルを合わすことなど、やっているつもりでも、実はできていなかったのではと改めて気付かされた。

・ポジティブな情報共有の大切さや常態的先行的アプローチではモチベーションの持続の難しさについても教えていただき、納得することがたくさんあった。

４．今年度の成果と課題

○成果

・今年度初めてできた部会のため、最初の会で各校の不登校対応の実態や困り感、支援の方法について情報共有をすることができた。

・１学期の実態を把握したうえでの８月上旬の研修なので、各校の実情と照らし合わせて講話を聴いたり、意見交換をしたりできたことが良かった。

・校種や規模によっても不登校支援教育研究会に求めるものが違っていたが、ある一定同じ方向性を持って会を進めることができた。不登校については、高知県や四万十市だけでなく全国的な課題であり、その捉え方や考え方も多様であり、以前とは変わってきていることも共有できた。

・講話では全国の不登校の状況や具体的な支援方法など、新たな学びを得ることができた。また、参加教員の困り感の軽減にもつながり、2 学期以降の教育実践に活かすことができる内容を助言いただいた。

●課題

・今後も研究を進めていく必要性を感じるが、不登校支援や対応のどこに焦点をあて、何を研究するかによって取組が違ってくるため、校種や学校規模の違う集団で行う研究の難しさを感じる。

・研修する回数が少ないため、難しい課題である不登校の問題を解決することは難しい。市が行っている不登校担当者会と上手につなぐことができないか。

・不登校支援についての捉えに温度差がある。変革期に来ている不登校支援を考えた時に、どう進めていくか、方向性を間違ってしまう危険性もあるのではないかと危惧する。

・児童・生徒に応じた個別支援が多くなる中で、マニュアル化していくことは難しいと感じた。

・講話では質疑応答の時間があまりとれず、質問しきれなかった。